

平成17年度戦略的研究開発プラン採択課題一覧

番号	実施機関	研究課題名	研究開発の概要	(実施年度) 研究費総額(千円)	共同研究先 ()内は県機関
1	工業技術センター	酵素を用いた青果物剥皮技術の開発	県内で生産されるカキ、いも類、ショウガなどを対象として、酵素を用いた汎用的な剥皮技術を開発。現在カキにおける剥皮歩留まり20%前後を90%に引き上げ、他の青果物への応用を検証する。酵素を用いた汎用的な剥皮装置の開発	(17年度～19年度) 29,720	木本産業(株) 近畿大学(生)
2	工業技術センター	CTスキャンによる3Dデジタルモデルの産業応用に関する研究	CTスキャンを用いて、アルミダイカストの内部欠損解析、プラスチック製品等の歪みや変形の計測、美術工芸品等の3Dコンテンツ・レプリカ作成などを研究 新規CTスキャナの製品化	(17年度～19年度) 29,725	
3	うめ研究所	ウメの保健機能増進技術の開発	ウメの持つ機能性成分を総括的・系統的に明らかにし、保健機能を有効に活用するための栽培・加工技術の開発、機能性成分の生理活性の検討、機能性成分含量の多い品種の作出等を研究。紅南高(赤みを帯びた高級ウメ)栽培法の確立。新規ウメ加工品食品(サプリメント)の開発	(17年度～19年度) 21,500	近畿大学(生、先) (社)県農産物加工研究所
4	工業技術センター	非ホルマリン鞣剤による白革製造技術	環境負荷の大きいホルマリンを用いない白皮用鞣剤の開発、染色・仕上げにおいても環境に配慮し、エコバブル取得可能な皮製造技術を確立 新規分野への展開(医療機関用の靴・衣服、ベビー用品) 工場内作業環境の改善	(17年度～19年度) 9,813	(有)トミタ工業
5	農業試験場	太陽熱利用土壌消毒のパワーアップ技術開発	病害虫の防除効果・環境への窒素流出量の抑制効果を高めた、太陽熱土壌消毒法の開発 エンドウ根腐病多発時被害(約3億円) 10%以下に スターチス萎凋細菌病多発時被害(約2億円) 20%以下に	(17年度～19年度) 14,719	和歌山大学(シ) 紀州中央農協
6	かき・もも研究所	カキ極早生品種の安定出荷・流通技術の開発と体系化	収穫後のカキの果実生理を解明し、有孔ポリ袋・防湿段ボール・1-メチルプロピレン等を用いた軟化防止技術の開発、軟化防止のための出荷・流通技術の体系化 軟化による損失を回避(予測額3年後2.2億円) 海外輸出への展開	(17年度～19年度) 14,724	岡山大学(農) レンゴー(株)中央研究所 ローム・アンド・ハース・ジャパン(株)
7	環境衛生研究センター	食品中の過酸化水素簡易分析法の開発	他県産物との差別化を図り高品質な和歌山県ブランドの県特産品を安定供給するために、シラスを取り上げ簡易過酸化水素分析法を新たに開発、簡易分析キットを開発する。 簡易分析キット開発による特許取得	(17年度～19年度) 8,000	県水産加工共同組合
9	果樹試験場	うめを有害するケシキスイの物理的防除法の開発	うめばしに混入するアカマダラケシキスイの物理的防除法(水浸漬法)の開発 クレーム処理、取引停止などの実質被害の回避	(17年度～19年度) 4,755	紀南農協 (うめ研究所)
10	増養殖研究所	海産魚白点病の防除対策の開発	海産魚白点病(寄生虫病)の生態特性を明らかにし、防除対策をマニュアル化 '03大発生時の被害(弊紙68万尾、2.3億円)の回避 防除システム開発による特許取得	(17年度～19年度) 4,855	東京大学大学院 堅田漁協